ピンクリボンNEWS

2025年度 冬号
Vol.14 No.4

発行人　認定NPO法人 J.POSH　　編集　ピンクリボンNEWS 編集委員会
発行所　J.POSH事務局〒538-0043 大阪市鶴見区今津南2丁目6番3号　TEL.06-6962-5071

J.POSH 日本乳がんピンクリボン運動

TOPICS

乳がんに向き合う方々へ届ける
～研究、そして未来への取り組み～



がん研究会
NEXT-Gankenプログラム

一般社団法人BC TUBE

家里 明日美

この度は、乳がん研究についてご紹介する機会を頂戴し、心より御礼申し上げます。まず初めに、簡単に自己紹介をさせていただきます。

私は約10年間、信州にて乳腺内分泌外科医として臨床に従事し、患者さんと向き合ってまいりました。その中で、現在の医療ではどうしても救いきれない患者さんに出会うことがあり、よりよい治療を患者さんに届けたいという思いが強くなりました。大学院入学を機に甲状腺がんの研究に携わり、予後の厳しい一部の甲状腺がんには依然として有効な治療法が乏しい現実を前に、「新しい治療法を生み出すことで社会に貢献したい」という気持ちが芽生え、研究の道へ進むことを決意しました。

トランスレーショナル研究への取り組み

現在は、がん研究会 NEXT-Ganken プログラムにて、主に乳がんのリンパ管侵襲やリンパ節転移の成立機序を研究しています。トランスレーショナル研究（TR研究）とは、臨床で見えてきた課題を基礎研究で解明し、その成果を再び患者さんへと還元する「橋渡し研究」のことです。私は、臨床で直面した課題を出発点に、診断・治療の向上につなげることを目指してTR研究に取り組んでいます。

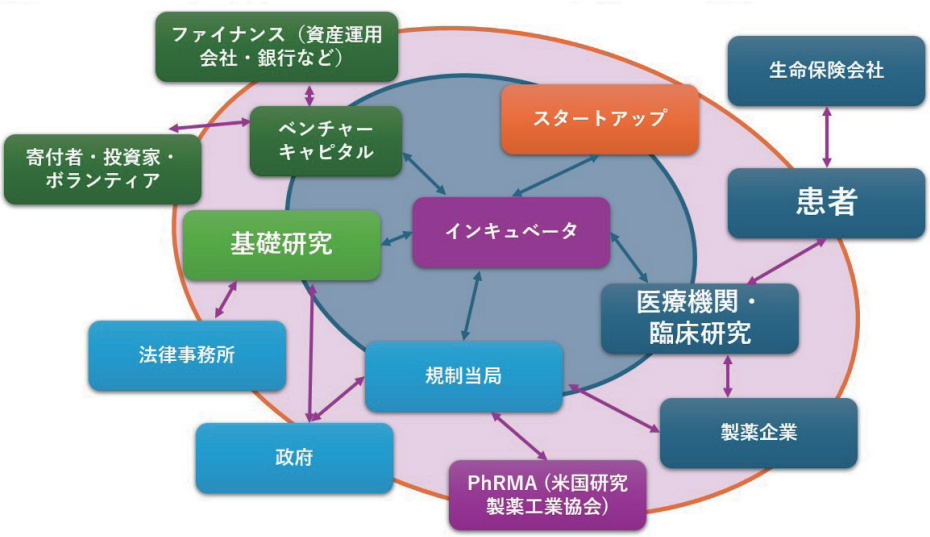
乳がんは働く世代・子育て世代にも多いがんであり、リンパ管侵襲は幅広い世代でみられますが、とりわけ産後乳がんに比較的多いことが知られています。進行・再発を左右する重要な因子であるリンパ管侵襲やリンパ節転移はなぜ起こるのか。リンパ管において何が起きているのか。その問いに答えるべく、分子メカニズムの解明と治療戦略への応用を目指して研究を進めています。また、リンパ管侵襲やリンパ流を介した転移の有無を、より低侵襲かつ高精度に診断・予測する検査法の開発にも取り組んでおります。

研究を続けていて強く感じるのは、がん治療の進歩の裏側には、非常に多くの人々の努力と連携があるという事実です。研究室にいると、創薬に関わる多様なステークホルダー（関係者）と接点を持つ機会は多くありません。しかし、2023年に参加したマンスフィールド–PhRMA研究者プログラム（https://

【次ページへつづく】

mansfieldfdn.org/jp/programs/mansfield-phrma-program/）では、アメリカの創薬エコシステムを構成する政府、大学、研究所、製薬企業、法律家、患者団体など、幅広い関係者の取り組みを見学しました。その中で、創薬が大きな枠組みの中で強力に推進されていることを実感しました。

創薬エコシステムの概念図（Mansfield-PhRMA プログラム第９期フェロー作成）



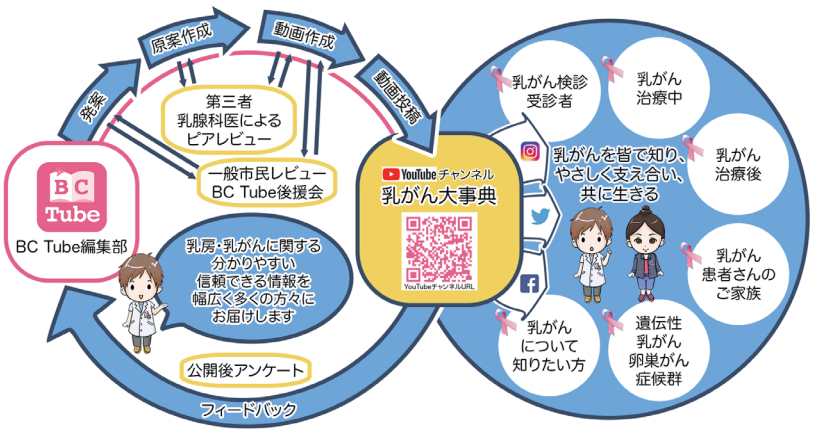
日本でも規模は異なるものの類似の創薬エコシステムが存在し、アカデミア（大学、研究所など）は「解決されていない臨床の課題」を明らかにし、それに基づく研究から新たな研究シーズを生み出し、創薬エコシステムへ供給する役割を担っています。また、そこで生み出された新しい治療を臨床試験として患者さんとともに世界へ発信していくことも、アカデミアの重要な責務だと考えます。

研究はしばしば遠い世界のものに感じられることもありますが、その先には必ず患者さんや家族、乳がんに向き合う人々の存在があります。私はベッドサイドから研究室へ場所こそ移りましたが、目指すところは変わりません。研究成果を再び乳がんに向き合う人々へ還元したいという思いが、現在の研究の原動力です。

BC TUBEの活動

2020年、私がボストンに留学していた際、伏見淳先生を中心に、山下奈真先生、田原梨絵先生、そしてSNSを通じてご縁のあった寺田満雄先生とともに、一般社団法人 BC TUBE（https://bctube.org）を立ち上げました。BC TUBE では、YouTube や他のSNSを通じて乳がん・乳房に関する医療情報を無料で発信しています。

BC Tubeの活動内容



BC TUBE では、YouTube や他のSNSを通じて乳がん・乳房に関する医療情報を無料で発信しています。

BC TUBEから発信している動画は、複数の乳腺科医が作成し、他の専門医の先生方にレビューしていただいた上で、さらに患者さん・市民の皆様からなる「BC TUBE後援会」に事前視聴していただき、わかりやすさや表現の適切さについてご助言いただいてから最終投稿しています。

こうした活動を通じても、乳がんに向き合う患者さんやご家族が少しでも安心して過ごせる社会の実現に向けて、「現在のオンラインにおける乳がん・乳房に関する医療情報の信頼

性はどうか」や「社会の興味関心、どういった情報が求められているか」、「BC TUBEが正しくわかりやすい医療情報を提供することで、オンライン医療情報環境を改善できているか」といった研究を進めています。

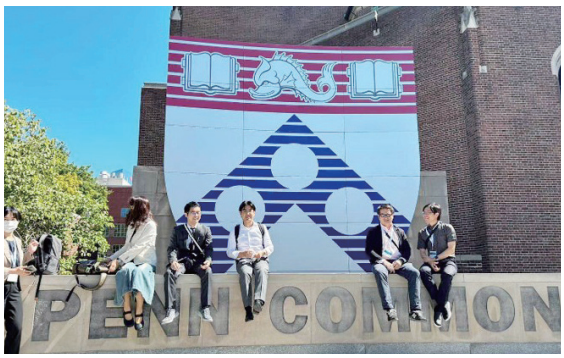
これからも、乳がんに向き合う方々の未来に少しでも貢献できるよう、研究に真摯に取り組んでまいります。

マンスフィールド－PhRMA研究者プログラム

マンスフィールド－PhRMA研究者プログラムは、米国研究製薬工業協会（PhRMA）の支援のもと、モーリーン・アンド・マイク・マンスフィールド財団が実施する、人材育成を目的とした国際研修プログラムである。医薬品開発や医療に携わる日本の若手研究者を対象に、約2週間、米国（ワシントンD.C.、フィラデルフィア、ボストン）でトランスレーショナルリサーチ、保健医療政策、医薬品研究開発、規制制度などに関わる機関を訪問し、医薬分野を取り巻く幅広いテーマについて学ぶ機会を提供している。また、独立行政法人医薬品医療機器総合機構（PMDA）、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）、経済産業省から同世代のオブザーバーも参加し、スカラー同士の議論や交流を通じて相互理解を深める点も特徴である。2013年から2024年までの過去10年間で、日本各地の大学や研究機関から多様な専門分野の研究者101名が参加してきた。帰国後は、スカラー同士での活動を継続するとともに、研修で得た知識・経験・人的ネットワークを所属機関や研究コミュニティに還元し、共同研究の推進や日本の研究開発政策の改善、新たなシーズの創出に寄与することが期待されている。



マンスフィールド ワシントンDCオフィスでのFDA（米国食品医療品局）とのミーティング



ペンシルベニア大学への訪問



Biogenの訪問

家里 明日美 プロフィール

2008年信州大学医学部医学科卒業。同大学附属病院で初期研修および乳腺内分泌外科医として勤務し、2017年に医学博士を取得した。2018年より Harvard Medical School、Beth Israel Deaconess Medical Center にてポスドクフェローとして基礎研究に従事。2020年には、ボストンの乳腺外科医仲間とともに一般社団法人BC TUBEの立ち上げに参画した。2021年に帰国後、がん研有明病院乳腺外科での臨床業務を経て、2023年よりがん研究会 NEXT-Ganken プログラムのクリニカルリサーチフェローとしてトランスレーショナル研究に従事している。

J.POSHへの寄付に温い思い

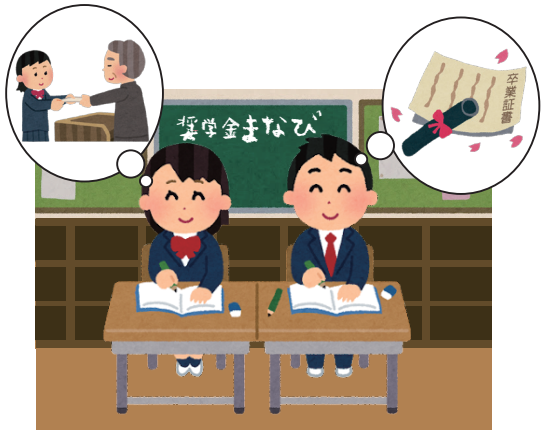
J.POSHの活動を支えて頂いているのはオフィシャルサポーター、オフィシャルパートナー、個人サポーターのみなさまです。このほかに定期的に、あるいは不定期に寄付金をお寄せ下さるみなさまは多く、その存在を抜きには語れません。こうしたみなさまからはコメントを寄せて頂いています。それぞれのご寄付に込められた思いを紹介させて頂きます。

【自身が罹患したことで、寄付を…】

寄付金をお寄せ下さったみなさまのコメントで最も多いのが『自身が乳がんを患い、こんなつらい思いをする人を一人でも減らしたい』 ―です。そんなみなさまの思いは…。

≪2人の子供たちが奨学金『まなび』を頂きました。今度は私がお返し≫

「私の罹患により、高校生だった2人の子供たちがそれぞれ『まなび』を頂きました。本人たちはもちろん、親の私の感謝の気持ちは口では言い表せません。健康を取り戻した今、寄付を通じて同じ立場の皆さんのお役に立てたらと、今度は私がお返しをする番です」。「30代で罹患し、その後再発して治療中に娘が成人しました。娘を含め、未来が広がる多くの女性のみなさんにピンクリボン運動を知って頂きたいと思います」。「３０代で罹患し左胸全摘手術。その後10年経って再発し、転移も確認され緩和ケアを勧められました。食事療法などで免疫力アップに努めた結果、現在は寛解となりました。同じ病気で苦しむ人たちに希望をもって病気と闘ってとエールを送ります」。「罹患により肉体的・精神的な辛さを経験。さらに社会的・経済的な不安も実感。経験者として同じ辛い思いをしているみなさん、そしてご家族のお役に立ちたい」。「２度の手術から、3度目の誕生日を迎えることができました。仕事にプライベートにと元気いっぱいです」。「2度の手術を経験しました。自分自身が生きている証に、誕生月に寄付します」。「乳がんと闘っている人を応援するため、名古屋ウィメンズマラソンに参加し寄付します」。「貴団体の素晴らしい活動に感謝。寄付をさせて頂くことにも感謝します」。「治療中です。先日、温泉に行きましたがその旅館でピンクリボン活動をしていらっしゃり、その活動に共感しました」。





【身内・知人の罹患を知り、寄付を…】

身内や知人が乳がんと闘っている姿を見て、『何かお役に立てることは…』と寄付を思い付かれた方が多くいらっしゃいます。

≪男性看護師です。男性の視点でピンクリボン活動を支えていきたい≫

「看護師(男性)です。母が罹患したことで、乳がんに対し現実味をもって受け止めています。男性の視点をもってピンクリボン運動を支えていきたいと思います」。「会社の同僚が罹患し、肺への転移により旅立たれました。葬儀のお手伝いもさせて頂き、喪主様からお志を頂きましたが使う気にはなれません。微力ながらお役に立てたら…」。「何年も連絡を取っていなかった海外の友人が長年乳がんと闘っていたことや、患者団体でピンクリボン活動をしていたことを後から知りました。現在病気と闘っているみなさんが少しでも楽しく希望をもって

生きられるようにと、ピンクリボン活動を応援したいと思いました」。「今日は長年応援し続けてきたアーティストが乳がんで亡くなった命日です。微力ですが毎年この日に寄付し続けます」。「身内を亡くした経験から乳がん啓発に少しでも携われたらと思い、先ずは寄付をさせて頂きました。個人でもできることがあれば協力させて頂きたいと思います」。「妻を乳がんで亡くしました。がんの怖さを思い知らされました。大勢の女性のみなさんにがん検診を受けて頂きたいと思います」。「姉が早期乳がんと診断されました。ごく早期だったため手術により完治しそうです。苦しむ人が減るように願いを込めて寄付いたします」。「女性の社会進出が推進される中で、乳がん女性のケアはとても重要と痛感しています。妹も乳がん患者であり、貴運動に賛同いたします」。「身近な人が検診で乳がんが見つかり、検診による早期発見の大切さを痛感しました。定期検診の啓発活動を展開されている貴団体への寄付を通じ、是非応援をと思いました」。「健康産業のインストラクターです。大切な友が乳がんに罹患し病気と闘っています。運動と笑顔を通じて病気と闘っている人々を元気付けられたら…」。「祖父が男性乳がんであり、がん家系の私は早期発見の重要性を認識しています。啓発活動を繰り広げている貴団体を支援して行きたいと思います」。



【その他】

「ピンクリボンイベントに参加したのが(募金の)きっかけです」というコメントや「プロスポーツ観戦で寄付した」などが寄せられています。

≪プリンセチアに添えられていたJ.POSHの短冊(啓発ポップ)を見て≫

「クリスマス用にと買ったプリンセチアに添えられていたJ.POSHの短冊を見つけました。それを見て寄付をしようと思いつきました」。「プロ野球



球団が実施するピンクリボンイベントでは千葉ロッテマリーンズ、ソフトバンクホークスなど、それぞれのイベントがきっかけに」。「自分自身に『○○を達成したら…』と課題を課し、達成したので寄付をさせて頂きます。今後もその都度寄付します」。「模型製作仲間で共有しているピンク色の塗料、1本につき300円を集め、それを寄付金に」。「女性のお客さまが7割を占める揚げ菓子のキッチンカーを営んでいます。10月限定のピンクリボン仕様菓子の売上金を寄付します」。「下着ブランドの企業で働いています。バストに関する健康に関心があります」。「私は男ですが、男性ももっと乳がんに関心を持つべきだと思います」。「私が支持している団体が、ピンクリボン活動団体に寄付していることを知り、私個人でも」。「オープンしたてのヨガスタジオですが、定期的な寄付ができるよう頑張ります」。「乳がん患者さんに関わる仕事に就いています。微力ながら募金を通じてお役に立てたら」。「ピンクリボン活動に関する記事を読みました。少しでも活動の足しに」。「保護者が乳がんに罹患された高校生に支給される奨学金の存在を知りました。ほんの少しですがお役に立てれば幸いです」。「勤務先の会社で乳がん検診を受診することを推進する役割を担うことになり、個人としてもまずは募金を」。「居酒屋を経営しています。お客様の寄付金をそのまま寄付します」。「ピンクリボン活動の記事を読み、寄付を思いつきました」。「(医療関係への)就職活動をしています。ピンクリボン検定を通じて幅広く勉強したいと思いました」。「診療放射線技師を目指しています。ピンクリボン検定を通じて知識を広めたい」。「男性でも乳がんに罹患する可能性があることを知り、このことをもっと広めてもらいたいと思います」。

スポーツ界でピンクリボン活動広まる

近年は、多くのスポーツ団体様から、ピンクリボン活動によるご寄付を頂いております。

アメリカンフットボールの発祥地であるアメリカからピンクリボン運動が始まった事もあり、アメリカンフットボールのチームからの寄付件数が一番多く、社会人チーム、学生チームなど、全国各地で、ピンクリボンアクションを行って頂いているようです。また、他のスポーツでも、10月のピンクリボン月間には、募金活動等を行って頂き、J.POSHにご寄付を頂く事が多くなりました。

大阪府レディースバドミントン連盟様や富士通女子バスケットボール部レッドウェーブ様など、女子のスポーツ界そしてフィットネスジムなどでも活発にピンクリボン運動に目をむけて頂いています。ご寄付を頂いた全てのチーム名を列記するのは紙面的に難しく申し訳ございませんが、今回は、プロバスケットボールチーム島根スサノオマジック様と、慶應義塾体育会アメリカンフットボール部ユニコーン様の活動をご紹介します。

島根スサノオマジック、選手のサイン入りTシャツをオークション

島根スサノオマジックは、ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（B.LEAGUE）のチーム。出雲神話に登場する「スサノオ」と「マジック」を組み合わせて名づけられ、運営法人は㈱バンダイナムコ島根スサノオマジック。同社は以前から、臓器移植や献血活動など医療課題の解決運動に力をいれており、J.POSHの啓発テッシュ配布や寄付金をお寄せ頂くなど乳がん啓発にも力を入れて頂いています。

ピンクリボン月間に合わせ、10月18、19日の2日間実施されたピンクリボンアクションである「PINK＆ROLL」（バスケットボール用語のpick ＆ roll からもじったネーミングです）では、同チームのニック・ケイ、中村太地、ジェームズ・マイケル・マカドゥ、岡田侑大の各選手の直筆サイン入りのオリジナルTシャツをチャリティーオークションとして実施。「入場者に入札用紙に金額を記入してもらい、最高入札金額の方に購入していただきました」（セールス･マーケティング本部担当）。４選手の出品物８点（４点×２日分）の落札額合計２１６、５５２円は、全額J.POSHにご寄付頂きました。



（オークションに出された選手のサイン入りTシャツ）

慶應大アメフト部、10月の3試合でピンクリボン運動

慶應義塾体育会アメリカンフットボール部（東京都港区）は、ピンクリボン月間である10月に開催された関東秋季リーグ戦3試合（対桜美林大＝10／4）、（対早稲田大＝10／13）、（対法政大＝10／26）でピンクリボン運動を展開。フィールドの選手を始めスタッフもピンクのアイテムを身に付けて運動の主旨をアピール。試合会場に募金箱を設置して広く来場者にも協力を呼びかけ乳がん啓発活動を実施されました。

募金ばかりでなく「UNICORNS」（同部の愛称）とピンクリボンがプリントされた特

製Tシャツ、特製リストバンドを制作し会場内のブースで販売を実施。募金と限定グッズの売上金の一部はJ.POSHにご寄付して頂きました。「自分たちの活動が少しでも多くの方に、乳がんについて考えるきっかけにしてもらえれば」との想いで、部をあげてピンクリボン活動を展開されました。



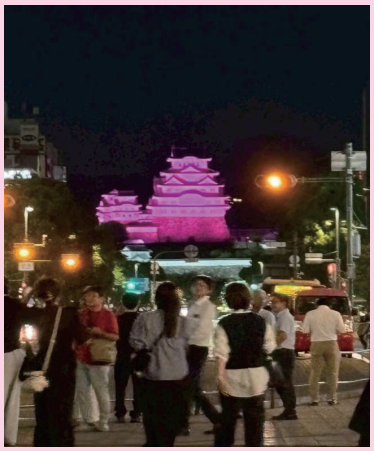
（ピンクのアイテムを身に着けて試合に臨む選手）



（特製Tシャツと特製リストバンドを制作し会場で販売）

全国各地のピンクリボン活動

世界遺産姫路城ピンクライトアップ（ピンクリボンひめじ）



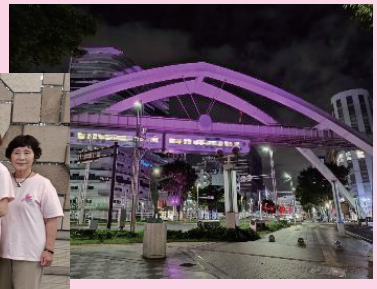
あけぼの会47周年全国大会（東京）



札幌テレビ塔ライトアップ（ピンクリボン in SAPPORO）







ピンクリボンコンサートちば・２０２５
蘇我コミュニティセンター・ロビーコンサート（ねむの会）

事務局からのお知らせ

JMS2025

今度年も、ピンクリボン月間である10月の第三日曜日（今年は１０月19日一部施設は日程変更あり）に各地の賛同医療機関でJMSプログラムをを実施して頂きました。毎年この日を自身の検診受診日と決めておられる方や、今回初めてJMSを知ったという方にも、休日に検診受診できる事を喜んで頂けました。

家族で湯ったりキャンペーン

2025年度も、ピンクリボン温泉パートナー様からご協力を頂き、家族で湯ったりキャンペーンを実施する事ができました。沢山のご応募を頂き、約16倍と言う倍率になりましたが、今年残念ながら当選とならなかった皆様には、また来年にもトライしてみていただければと思います。

奨学金まなび募集期間変更のお知らせ

次年度から、奨学金まなびの受付開始日を変更致します。従来は4月1日からとしておりましたが、提出書類、特に所得証明書の最新版が間に合わないという事情により、受付開始を6月1日とし、締め切りは7月１０日必着とさせて頂く事としました。これに伴い、新規生への支給開始は9月になる為、初年度は1度に年間分の振込となります。継続生は、従来通り、5月と１０月の２回に分けてのお振込みです。

シッターサポートプログラム



今までは各月10日の消印有効としていましたが10日必着で締め切りとさせて頂きます。申請される方はお気をつけください。

ピンクリボンNEWSあとがき

ノーベル生理学・医学賞、本庶氏につづき坂口氏受賞

2025年のノーベル賞に坂口志文氏と北川進氏の２人の日本人が受賞されました。坂口氏は生理学・医学賞、北川氏は化学賞とそれぞれの分野での受賞。坂口氏の生理学・医学の分野での受賞は、2018年に本庶佑さんの受賞に続くものです。坂口さんの受賞理由は「免疫反応を抑える免疫の警備役ともいわれる『制御性Ｔ細胞』を発見した」というもの。免疫が細胞を区別し、外敵の病原体だけを攻撃する仕組みを解明し、がん細胞の増殖や自己免疫疾患の治療法の開発に大きな期待が寄せられているということです。７年前・18年冬号の当コラムでは「本庶さんの受賞理由を平たく言えば免疫反応にブレーキをかけるタンパク質を見つけ、画期的ながん治療薬・オプジーボの開発に道を開いた」と記されており、がんと闘う人々に大きな希望を与え続けているのはいうまでもありません。今回坂口さんの発見した「制御性Ｔ細胞」はＩ型糖尿病などの治療に向けた研究が進められていて、また、一部のがん治療への活用を模索中ということです。研究者のみなさまの地道な研究の成果が、病気と闘う人々に大きな希望を与えてくれています。（I.T）

